

## 三年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
安全教育	1	15	3年前期	鎌田 たまみ(○)
<p>科目目的 : 医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、事故の発生要因やその事故防止のための基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 医療事故の構造と事故防止の考え方について理解する  2. 看護職の責任と法的責任について理解する  3. 看護・医療事故予防と看護実践について理解する  4. KYTによりエラーや事故の可能性を察知し、事前に防止する手立てを講じる能力が身につく</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院</p> <p>参考文献 : ナシグ・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 MC ｼﾞｯｼﾞ出版  医療安全ワークブック 医学書院</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験 鎌田100% (KYTレポート評価20%)</p> <p>評価認定 : 優(80点)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>看護事故の構造分類に基づいて「してはならないこと」「すべきことを」という2つの事故防止の視点で、事故事例の分析や、危険予知力を高めるために危険予知訓練を行い安全の重要性と看護事故防止の考え方を理解していきます</p>				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	事故防止 の考え方	事故防止の考え方を理解する	4	1.医療安全を学ぶことの意義 2.事故防止の考え方 1)医療事故と看護業務 2)看護事故の構造と事故防止の考え方	講義
3	看護職の 責任と法的責任	看護職の法的規定や医療事故に伴う看護師の法的責任について理解する	2	1.保助看法による業務範囲 2.医師業務との関係 3.注意義務・法的責任 4.ヒヤリ・ハット体験の分析と共有化 5.学生としての法的責任	講義
4 5 6	看護・医療事故 予防と看護実践	看護実践での事故防止を理解する	6	1.診療の補助業務に伴う事故防止 1)注射業務・輸血業務と事故防止 2)内服与薬業務と事故防止 3)経管栄養業務と事故防止	講義 DVD 「与薬を安全に実

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4)チューブ管理と事故防止 ※.DVD 視聴し事故事例分析（グループワーク） 2.療養上の世話の事故防止 1)転倒・転落事故防止 2)誤嚥・異食事故防止 3)入浴中の事故防止 3.業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 1)患者間違いの要因と防止 2)誘発するタイムプレッシャー 3)新人特有の思い込み・行動パターン 4.医療安全とコミュニケーション 1)不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2)医療職間のコミュニケーション	施すために「事故事例の分析 DVD「転倒転落事故を防ぐ」事故事例の分析
7 8	KYT	危険予知力を高めることができる	3	1.学内演習 1)実施項目 (1)KYT(危険予知トレーニング) 2)学習方法 (1)KYTの進め方・討議のポイントのオリエンテーション (2)事例の提示・グループワーク (3)危険因子の抽出 (4)グループ発表 (5)討議・意見交換による重点項目の絞り込み 3)評価方法・評価の視点 (1)グループのまとめ提出資料から評価：根拠・留意点が明確である (2)個人レポート評価：自己の傾向を含め感想が述べられている	講義 学内演習  グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験・KYTレポート評価	

事前課題：1年次で学習した内容（教科書 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 第14章 安全確保の技術）を読み直し、要点を整理しておきましょう。提出日：講義開始 3日前

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
教育学	1	30	3年後期	西出 勉
科目のねらい 教育の本質、機能と教育が人間形成に果たす役割を学習し自己教育につなげる				
教科書 : 授業で紹介 資料配布 参考文献 :				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 単位認定試験：優(80点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 指定教科書がありませんので、資料配布を教材として進めます 教育の考え方は臨床の場でも役立ちます				

#### 授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	2	・教育の二つの作用について	講義
2	教育の意義	2	・教育の営みに関する識者の考えについて	講義
3	教育における楽観主義と悲観主義	2	・中世、近代の教育観について時代を追って解説	講義
4	教育と素質	2	・教育と素質、教育万能論について	講義
5	教育と環境	2	・教育と環境、境遇説、限界論について	講義
6	教育作用の教育学	2	・教育と問いについて	講義
7	人間の成長と愛	2	・教育愛と人間の成長発達について	講義
8	教育愛とエロス	2	・ソクラテスの教育愛について	講義
9	教育愛とアガペー	2	・ペスタロッチの教育愛について	講義
10	教育愛の総合性	2	・教育愛と教育作用の関係について	講義
11	倫理観の類型(1)	2	・善悪を判断する根拠について	講義
12	倫理観の類型(2)	2	・善なる行為を判断する根拠について	講義
13	道徳性の発達理論	2	・道徳性を高める契機について	講義
14	道徳教育の方法原理	2	・道徳性を高める方法について	講義
15	まとめ	2	・講義全体のまとめと確認	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
総合医療論	1	30	3年後期	島村 佳一
科目のねらい 医療を取り巻く現状と諸課題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度① 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 70% レポート内容 30% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 医療を総合的な立場から理解するために、最近の医療現場で重要視されている様々な問題についてトピックスとして取り上げ進めていく				

#### 授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	医療の歩みと医療観の変遷	2	1. 現代医療の起源 2. 医療観の移り変わり	講義
2 3	科学技術の進歩と現代	4	1. 科学技術の進歩と社会・生活の変化 2. 現代医学と先端医療技術の最前線 がん診断の最前線 移植医療 人工臓器の開発 体外受精と出生前診断 再生医療 画像診断装置の進歩	講義 プレゼン テーショ ン
4 5 6 7 8 9	医療現場で重要視されている諸問題 (現代医療の新たな課題)	12	1. 脳死について 脳死をテーマとして、人の死に対する理解を深め、臓器移植を含め倫理的な問題についても考察する 2. 人工臓器について 3. 死生観 死生観を養う 4. インフォームドコンセントと医療情報の開示 医療者としての役割を理解する 5. 生命倫理学と臨床倫理学の展開	講義 事例紹介 レポート 提出
10	医療を見つめ直す新しい視点	2	1. 臨床疫学 2. 患者の安全	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 1		2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の管理と評価</li> <li>2. これからの先端医療開発</li> <li>3. 情報化社会と医療</li> </ol>	講義
1 2 1 3	保健・医療・福祉の潮流	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の健康における医療の役割</li> <li>2. 健康・医療・社会の相関</li> <li>3. プライマリーの新たな展開</li> <li>4. 医療におけるケアの視点</li> <li>5. 地域包括医療システムの新しい展開</li> <li>6. 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割</li> </ol>	講義  プレゼン テーショ ン
1 4 1 5	私たちの生活と健康	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政</li> <li>2. 疾病の一次予防と健康増進</li> <li>3. 少子高齢化社会と世代間のきずな</li> <li>4. 障がい者のノーマライゼーションと社会的包摂</li> <li>5. 心の健康と精神医療</li> </ol> 最後にまとめ	講義 事例紹介 演習
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
看護研究	1	30	3年 通年	藤原未央(○)
<p>科目目的 : 科学的・論理的思考を基盤とし、看護の質の向上に向けて研究に取り組むために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 看護研究の必要性を理解する 2. 看護研究のプロセス・方法を理解する 3. 看護研究における倫理を理解する 4. 事例研究(ケーススタディ)を通して看護実践を振り返り、自己の看護に対する考えを明らかにする</p>				
<p>教科書 : 黒田裕子の看護研究 step by step (第4版) 黒田裕子著 学研 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 松本孚 照林社 実践に生かす看護理論 19 医学芸術社</p> <p>参考文献 : 看護学生のためのケーススタディ 高橋百合子 メヂカルフレンド社</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験50%、ケーススタディ50%(レポート40%、取り組み姿勢10%)</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方: 1. 1~4回目までは講義形式、5回目以降は担当教員と時間調整を行いながら各自での取り組みになりますので、主体的・計画的に進めていきましょう</p> <p>2. 臨地実習で受け持ったケースから1事例を選択し、ケーススタディを行いますので、問題意識を持ちながら実習に取り組み、研究では日々の看護実践の意味をさらに深く掘り下げていきましょう</p> <p>3. 時間を十分かけて文献検索し、日頃から様々な視点で考える習慣をつけていきましょう</p> <p>4. 研究に対する苦手意識は持たず、その都度疑問点は解決しましょう</p>				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	看護研究 の意義	看護における研究の必要性を理解する 看護研究の種類を理解する 文献検索の必要性と活用方法を理解する	4	1.看護研究の役割 2.看護研究の種類 1)事例研究 2)調査研究 3)実験研究 4)文献研究 3.文献検索 1)看護研究における文献検索の意義 2)文献の種類 3)文献検索と文献検討 4)一次文献と二次文献 5)文献のクリティーク	講義

	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		看護研究における倫理的側面を理解する		4.看護研究における倫理的問題とその対応 1)インフォームド・コンセント 2)個人情報の保護 3)プライバシーの尊重	講義
3 4	看護研究のプロセス	看護研究の基本的な要素と進め方を理解する 研究計画書作成の必要性と方法を理解する ケーススタディの目的・方法を理解する	4	1.看護研究のプロセス 1)研究課題（テーマ）の明確化 2)研究方法の選択 (1)量的なアプローチの研究 (2)質的なアプローチの研究 3)研究データの収集方法 4)研究データの分析 5)研究計画書 2.ケーススタディのプロセス 1)ケーススタディの目的 2)ケーススタディとケース検討の違い 3)ケーススタディの進め方 4)ケースレポートの構成・書き方 5)発表の方法・留意点	講義
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	ケーススタディ	実習で受け持った中から1事例を選択し、ケースレポートを作成・発表できる ケーススタディを通して、現時点での自己の看護観を明らかにする	22	1.ケーススタディ演習 1)学習方法 (1)テーマの決定 (2)研究計画書の作成 (3)情報収集・整理・分析 (4)文献検索・文献検討 (5)ケースレポートの作成 (6)発表（口演） ①発表原稿の作成 ②プレゼンテーション資料の作成 (7)リフレクションシートの記載 2)評価方法 ケーススタディ評価表で評価する	担当教員による個別指導
単位修得認定試験			1	筆記試験・ケーススタディ評価表	

<事前課題>

各講義前には、教科書の該当箇所を熟読する。

ケーススタディ前には、選択した事例に関する資料（実習記録類）の確認・整理を行う。



科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
看護管理	1	30	3年後期	鎌田たまみ(○)
科目目的 : 看護をマネジメントできる基礎的知識と方法を理解する 目標 : 1. 看護マネジメントの意義が理解できる 2. 看護ケア・看護サービスのマネジメントが理解できる 3. 看護を取り巻く諸制度が理解できる 4. マネジメントに必要な知識・技術を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 参考文献 : フロレンス・ナイティングール 看護覚え書 ー看護であること看護でないことー 現代社 ナッシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 MC グラフィカ				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけではなく、ケアを提供している全ての看護師が担う役割であることを理解し、チーム医療および他職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする方法を学んでいきます				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	看護マネジメントの意義	看護マネジメントの意義を理解する	2	1.看護管理学とは 2.グループワーク:ナイティングール「看護覚え書」の3章小管理で解釈できたことを話し合ってみましょう。 3.マネジメントとは 1)看護におけるマネジメント	講義 グループワーク
2 3 4	看護ケアのマネジメント	看護職が提供する看護ケアのマネジメントについて理解する	6	1.看護ケアのマネジメントと看護職の機能 1) 看護ケアマネジメントのプロセス PDCA サイクル 2.患者の権利の尊重 1)インフォームド Consent 3.安全管理 1)医療事故対策 4.チーム医療 1)看護職の責任と役割 2)他職種との連携・協働	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				1)看護業務の実践 (1)看護基準・看護手順 (2)情報の活用	
5 6 7 8	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解する	8	1.看護管理の定義 2.看護の組織化 3.看護サービス提供の仕組み 1)看護単位の機能と特徴 2)看護サービス提供システム 4.人材マネジメント 1)キャリア開発 2)労働環境 5.施設・設備・物品・情報マネジメント 6.リスクマネジメント 7.サービスの評価	講義
9 10 11	看護を取り巻く諸制度	看護や看護職の定義や法制度について理解する	6	1.看護の定義 2.看護職 1)専門職性 2)法制度 3)法的責任 4)職業倫理 5)教育制度 3.看護実践の領域と場 4.医療制度	講義
12 13 14 15	マネジメントに必要な知識と技術	組織の構造とその原理について整理し、マネジメントとの関連について理解する	8	1.組織とマネジメント 2.リーダーシップとマネジメント 3.組織の調整 1)コミュニケーション 2)動機づけ 3)パワーとエンパワメント 4)コンフリクト 4.組織と個人 1)キャリアとキャリア形成 2)意思決定と問題解決 3)ストレス・タイムマネジメント 5. グループワーク 病院組織の一員としての自己の役割	講義  レポート 提出
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題：70155-ナインゲール「看護覚え書」三章 小管理 を読み、物事の意味が理解できたことを書いて整理してください。提出日：講義開始3日前

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
災害看護	1	15	3年後期	黒滝いずみ(○) 中川千穂子(○)
科目目的 : 災害看護の特徴を理解し、災害時に適切な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 災害および災害看護の基礎知識を理解する 2. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する 3. 演習を通して、災害時の救援活動に必要な基礎的な救援技術、心構え、態度および判断力と行動力を習得する				
教科書 : ナシグ・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 MC ぎょう出版 参考文献 : 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院				
評価方法 : 筆記試験100% (DAMT体験学習10%レポート提出) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 災害時の知識と技術を統合させ、災害時における救急法の演習を行います。グループワークではメンバーで協力し、内容を綿密に検討しながら計画的に技術練習を重ね演習に臨みましょう				
単元：災害看護の定義 病院災害と減災 災害における救急法			担当講師：中川千穂子	
単元：被災地における災害時の看護活動			担当講師：黒滝いずみ	

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	災害看護の定義  災害と倫理  災害の種類・災害サイクルと看護	災害看護の定義を理解する  倫理原則の受容性を理解する  災害の種類と被害、疾患の特徴を理解する	2	1. 災害看護の定義 2. 災害と倫理 1)災害看護における倫理原則 3. 災害の種類および被害・疾患の特徴 4. 災害サイクル 1)災害サイクルとは 2)静穏期・準備期・災害発生前 3)超急性期 4)急性期 5)亜急性期 6)復旧復興期	講義
	災害医療に関する国の政策と法律	災害医療に関する国の政策と法律問題を理解する		1. 災害医療に関する国の政策 2. 災害医療に関する法律 1)救急業務 2)災害時の医療体制 3)トリアージと法律上の問題 4)被災者支援体制と生活支援	
2	病院災害と減災・防災マネジメント	危機管理とその意義を理解する	2	1.防災・減災・レジリエンス 2.災害に備えた事業継続計画 3.災害時の組織体制	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4.災害時の情報収集と伝達 5.災害時における連携と協働	講義
	災害看護と国際看護	グローバル化社会において必要とされる災害看護について理解する		6.国際看護とは 7.日本における国際看護 8.海外における災害看護と国際看護活動	
3 4	被災地における災害時の看護活動	災害時の看護活動の意義と実際を理解する	4	1.初動時(超急性期・急性期) 1)発災時～医療活動における初動ポイント 2)災害要援護者へのトリアージ 2.医療救護所における看護活動 1)医療救護所における看護師の役割 3.避難所における看護活動 1)避難所における看護師の役割 4.仮設住宅での看護活動 5.在宅における看護活動 6.復興住宅における看護活動	DVD 視聴 DMAT 講義 体験学習 講義
	被災者の心理・支援者の心理の理解と援助	災害時による心理的な影響について理解する		1.被災者の心理的特徴と援助 2.支援者の心理状態とその特徴	
	災害時の健康危機管理	災害時の感染対策の受容性と意義を理解する		1.災害時における感染症対策の重要性と意義 2.感染症対策の実際	
	災害時に必要な医療・看護技術	基本原則 CSCATTT の概念を理解する 応急処置・搬送技術の概念を理解する トリアージの方法を理解する		1. 応急処置・搬送技術 (TT) 1)心肺蘇生法 (1)一次救命処置 (BLS) (2)二次救命処置 (ACLS) 2. 体系的対応の基本原則 (CSCA) 1)CSCATTT とは 2)後方支援 (ロジスティック) 3. 災害時のトリアージ (T) 1)判定区分 2)一次トリアージ 3)二次トリアージ 4)トリアージタグ記入方法・装着部位	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5 6 7 8	災害における救急法の実際	災害時における基本的な救護技術が実践できる  災害時の看護師の果たす役割、看護支援活動の実際を理解する	7	1.実施項目 1)震災発生後避難場所での救護活動の実際 2)被災者が来院、救急処置室での救護活動の実際 2.学習方法 1)オリエンテーション (1)目的・目標 (2)演習方法 (3)場面設定・事例紹介 (4)実施手順・必用物品 2)救護所・救急処置室の各4事例の読み込み、グループ内での意見交換 事例の検討 3)傷病被災者に必要な救護活動の実際（各演習開始直前に各状況設定・事例の提示） ・被災者役・家族役・観察者には事例の役割演技を指導(担当教員) ・グループ内で輪番に全員が救護室1事例、救急処置室1事例の看護師役を体験する 3.グループ発表 1)演習で実施した内容を基に、災害に必要な看護師の能力や実際の体験を通して学んだこと、今後の自分たちの課題をまとめる 4.リフレクション 1)リフレクションシートの記載 2)演習担当教員から個別指導・助言	学内演習  オリエンテーション  グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
看護技術統合実践	1	30	3年後期	野口 みどり(○)
<p>科目目的 : 既習の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づいた看護技術を事例に応じて計画、立案し看護を実践できる</p> <p>目標 : 1. 事例からアセスメント・課題を抽出し、援助計画書が立案できる  2. 指定された看護技術を援助計画書に基づき実施できる  3. 根拠に基づき、看護を計画的に実践できる  3. 倫理的態度の育成が向上する  4. 看護実践能力を統合的に評価し、自己の課題を明確にし、今後の学習に繋げる</p>				
<p>教科書 : 各看護学で学習した看護技術の教科書全般</p> <p>参考文献 : 必要時配布</p>				
<p>評価方法 : 援助計画書20% 技術評価80%</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>複数課題の技術内容です。計画的に進め、今までに学習してきた知識・技術・態度の領域で看護者として必要な技術をしっかり練習して臨んでください</p>				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術演習 オリエンテーション	演習の目的・目標を理解し計画的に進められる	2	1. 実施項目 1) 2事例の援助計画書の立案 2) 2事例のうち指定した1事例の看護技術を実施・評価 2. 学内演習オリエンテーション 1) 演習の目的・目標 2) 演習内容 3) 演習方法 4) 評価方法 5) 評価の視点 6) 演習手順 7) タイムスケジュール 8) 事例の紹介 9) 事前計画書説明	オリエンテーション
2 3	技術演習	事例に必用な学習内容を導き主体的に学習できる	4	3. 実施方法 1) 事例に関する学習 (1) 事例に関する解剖生理と病態 (2) 事例に関するフィジカルアセスメント (3) 事例に関する看護援助技術 生活援助技術 診療援助技術	個人ワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
4 5 6 7	技術演習	事例のアセスメントから必要な援助計画が考えられる	8	2)事例に関する援助計画書立案 (1)2事例をアセスメントして課題の抽出 (2)2事例の援助計画書立案 グループワークの後個人ワークで完成させる	グループワーク 個人ワーク
8 9 10 11 12 13 14 15		対象の症状・状況に応じて、看護技術を安全・安楽・自立を考え根拠に基づき実践できる	16	3)演習グループ内で技術練習 (1)各自が立案した援助計画書に沿って2事例の技術練習を行う (2)グループ内で一人の練習時間を公平に配分し積極的に練習に臨む (3)演習グループ内観察者・患者役のものは提供された技術の助言を行い各自援助計画書の修正・追加を行ない完成を目指す 4)援助計画書の最終提出	
単位修得認定試験			1	実技試験・援助計画書で評価	